

△事業概要について

◆（加納委員） 委員長に確認ですが、毎回常任委員会が開かれて、議題が出てきますね。そのときそのとき、議題以外のさまざまな状況が出てきた場合、その他として発言を許していただければありがたいのです。それについて、正副委員長で検討していただきたいのですけれども、いかがでしょうか。

◆（加納委員） それでは、きょうは事業概要の委員会ですので、細かいことは別にしまして、確認だけさせていただきます。

この概要の1ページの原子力発電所の事故等の影響に伴うエネルギー調達コストのところで、いよいよまた節電ということでさまざま大きな報道がされていますけれども、本市交通局としてバスや地下鉄についての節電計画はおおむねどうなっているのかの確認だけさせていただきます。

◎（二見交通局長） 電力で申しますと、新聞情報等にもありますように、東京電力が大口径需要者に対し平均17%の引き上げという話もありまして、交通局にとってもエネルギー調達コスト、電力は非常に大きな問題です。

現在、できるところは徹底的な節電が必要と考えており、地下鉄では、国の指導もあり横浜市の節電対策もあるのですが、国あるいはほかの鉄道事業者も大体足並みをそろえており、お客様サービスに支障を生じないように、今の時点では極端な変更がなければダイヤの削減等は特には考えておりません。できるところできちんと節電して、お客様サービスにかかる部分については支障ないようにしてまいりたいと考えております。バスも同様でございます。

◆（加納委員） 節電で去年、エレベーターをとめるかとめないかの課題もあったし、照明や空調の問題もありました。

今の御説明だと非常に常識的でアバウトですけれども、具体的に何か数字的な形で御説明をもう一步深くいただけないでしょうか。

◎（二見交通局長） 大変失礼しました。

強いて申しますと、次回の常任委員会ですまびらかに御説明させていただきたいと思っております。新たな中期経営計画の中でこの3か年の目標として、エネルギー関係につきましては平成22年度に対してマイナス5%の電力削減を図ってまいりたいというのが当面の大きな目標でございます。

◆（加納委員） では、今の御説明では、次の委員会の中で御説明いただけるということなので、一応それはそれとしてわかりました。

次に、4ページの(2)の安全・確実・快適な交通サービスの提供ということで、バス事業で年間どのぐらいの事故件数か、また、それはどういった事故なのか、平成23年度だけでも教えていただきたい。鉄道関係でもしそういったものがあるとすればどうということなのか。これから1年間勉強しなければいけないので、事故とはどういうものを指すのか教えてください。

◎（二見交通局長） 昨年度の平成 23 年度、私どもに何らかの責任のある有責事故の件数が 138 件でございます。内訳的には、先ほど事業概要の御説明でドライブレコーダーのカメラのことを申し上げたのですが、自転車との接触事故が増加傾向にありまして、これに対する対策が焦眉の急でございます。その他は、やはり停車している車両との接触や、停車の際のお客様の車内転倒という内容となっております。

◆（加納委員） 今のはバスですね。バスの平成 23 年度の事故件数が 138 件で、内容は自転車等が多かったということですね。例年からすると多いのか、毎年、平均はどのぐらいなのか、もし今すぐわかれば伺いたい。

◎（村上自動車本部長兼自動車本部安全管理担当部長） ちなみに、平成 22 年度は 157 件ございました。したがって、徐々に減ってきているという状況だと思います。

◆（加納委員） 今、通学時の安全対策をやっていますよね。社会的にも通学路の安全対策を教育委員会や道路局で、いろいろな形で何とかみんなで安全性を担保しようということをやっていますけれども、バスの運転手も通学路を走っている。自転車との接触事故が一番多くて、今の話だと平均して 150 件少しですね。本市の通学路、通学時の安全対策に、バスの運転手側からの目線での意見や視点なども大事な観点ではないかと思うのだけれども、局長の御見解はいかがでしょう。

◎（二見交通局長） 私どもは 800 台ぐらいのバスで 800 人ぐらいのドライバーが市内を走り回っておりますので、私も今つまびらかに承知はしていないのですが、間違いなく通学路も走ることもあるでしょうし、いろいろな細い道もあるでしょう。バスの乗務員は大型二種免許を持っているプロではあります。当然安全対策に一番気を使っていますので、加納委員御指摘の自分なりの問題意識はあるはずであります。その辺は、私どもの安全対策としても十分乗務員の意見を吸い上げて、事故のないようにしてまいりたいと考えております。

◆（加納委員） 大場副市長がいられたら、大場副市長にも少しお願いしようと思ったのですが、今、通学路の安全対策で、本市や各地域も苦勞しながらやっていますね。ですから、一つの考え方として、バスの事故、自転車との接触事故とあるけれども、その対策の中に子供等の問題もあるでしょう。本市の通学路、通学時間の安全対策の中に交通局の目線、視点も入れて、意見も聞いてという形で、本市の通学安全対策のシステムの中に交通局の意見も入れるべきではないかということだけ意見として申し上げておきます。局からまた、市全体、地域への流れについても、意見としてそういう観点、視点もどうでしょうかと言っただけないかと思うのですけれども、いかがでしょうか。

◎（二見交通局長） 今の御指摘を受けとめさせていただきます。非常に重要な視点だと思いますので、今後機会を見て、そういった提案をしてまいりたいと考えております。

◆（加納委員） それから、5 ページの（4）の経営力の向上について、バスの車両の長寿命化は大変大事な観点だと思うのですが、12 年から 15 年になると、確かにここに書いてあるように車両更新・導入にかかるコストが低減することは一方でわかるのですが、いわゆる経費がかかるのではないかと。その辺の簡単な数字があれば教えてほしい。延ばすことによって削減されるのだけれど、しかしある意味で長寿命化によって修理やいろいろなものが出てくるのではないかと思います。その辺の数字の中で、長寿命化によって実はコストダウンですよということをお示しいただければと思います。

◎（二見交通局長） 12年から15年に延ばすことによって、何か3年間のうちに特別な点検や改修をするということはありませんで、日常のメンテナンスを私どもの整備担当でまめに繰り返して長寿命化を図ることが基本の基本でございます。

やはりバスにつきましては、1台約二千数百万円で購入しまして、1年当たりの減価償却を考えましてもかなりの額になりますので、1年でも長く、12年よりは15年と、3年延ばしまして15年で使い切ることのほうが、コスト的にも非常にメリットがあると考えております。

◆（加納委員） これで終わりますけれども、多分次の委員会等で平成24年度から始まる中期計画がより具体的に発表されますから、またそこでも質問させていただきます。

肅々と赤字から黒字へ、それからお客様満足度ということも含めてきょう聞きましたけれども、それはそれとしてしっかりとやっていただきたい。

あとは先ほどの安全対策もそうですけれども、新たに何か貢献できるもの、通学路の問題も含めて、工夫して御検討いただければと思います。

#### △事業概要について

◆（加納委員） それでは、きょうは最初ですので余り細かいことは踏み込まないですけれども、平成24年度水道局運営方針について確認だけさせていただきます。

この目標達成に向けた施策の中で、3、災害に強い信頼のライフラインとある。実は水道局はことし3月にウェブ上の地図機能、グーグルマップを活用して、災害時の市内応急給水拠点を検索できるスイスイマップを新たに作成したと私どもは認識しているのです。それで、状況はよくわかっているのですが、その中で、災害時にみんなが集合する地域防災拠点や医療拠点の学校施設に、給水タンク等がないところがあるでしょう。もしわかれば、どれくらいあるのか教えていただきたい。

◎（土井水道局長） 概略ですが、災害用地下給水タンクは、全市内の大体500メートル圏内に1カ所の計画で全134カ所置いており、そのうち118カ所が小中学校の下などに設置されております。ですので、全市の小中学校の防災拠点は四百数十カ所だと思っておりますので、そのうちの118カ所ぐらいということになります。

◆（加納委員） 突然の話だから、改めて資料をいただければありがたいのです。委員会資料にするか個人的な資料にするかは、委員長の御判断に任せますけれども。

私は瀬谷区ですが、瀬谷区の中でいつも困っているのです。ある小学校の地域防災拠点からある中学校まで災害時の飲料水確保のためリヤカーで水をくみに行くのです。駅から近い小学校だけでも、そこに給水タンク等がないのです。帰宅困難者対策やいろいろなときにも、その小学校は多分多く活用されるであろうに、そこにはないのです。その小学校からさらに遠い中学校に、訓練のために毎回リヤカーにポリバケツを積んで飲料水の確保のためにいくわけです。給水車の新たな改造云々とあるから、これはこれでわかるのだけれども、いざ災害となると、給水車が来るかどうかという問題もあるし、お金の問題も一つあるから、まず給水タンク等設置の実態を教えていただきたい。

それから、駅に近く、帰宅困難者への活用をするなどと複数の活用ができる拠点から、優先順位を決めていただいて順次給水タンク等を含む整備で、飲料水の確保ができるような検討をしてもらえないかと思うのですけれども、いかがでしょうか。

◎（土井水道局長） 数字をうろ覚えで答えまして、済みません。134カ所のうち114カ所の小中学校ということですので、訂正させていただきます。

今の御質問ですが、タンクは膨大な費用もかかりますので設置することは可能ではありますが、給水車の活用や、また、今はキャンバス型大型水槽という大きく水が取れるものもありますので、私どもも地域の防災訓練のできる限り地域と相談し、それらの運搬を臨場感ある形でその小学校に合わせて行って、できるだけ実践的な訓練ができるよう現在努めているところでありまして、今後も区役所といろいろ相談していきたいと考えております。

◆（加納委員） きょうは初めなのでこれぐらいで終わっておきますけれども、そういう課題がやはりあるということと、集まる場所ですから優先的に対応していただきたいということです。

給水車の問題は一方でわかるのだけれども、災害時に給水車がどうなのかということも含めると受水槽等の活用も含め、しっかりと検討していただきたい。また、これはこの1年の中でしっかり議論していきたいですが、ぜひそれは進めていただきたいということをまず1点要望しておきます。

次に、今回、本市では孤独死、孤立死と言いはれ方は幾つかあるようではございますけれども、このことで特別委員会を立ち上げました。私は日ごろから、ガスや水道の検針のときにお声かけをして安否確認ができるのではないかと、それから高齢者の見守り対策になるのではないかと常々思っていたのです。ともに2カ月に1回、おはようございますとかこんにちはと言って入ってきますね。こっちが返事しようがしまいが、いずれにしてもおはようございます、こんにちはと入ってきて、メーターを検針していただいて、その結果をポストか何かに入れていきますよね。

いろいろな状況があることは僕も知っているのだけれども、平成24年度水道局運営方針にもお客様とともにの中に、お客様とのコミュニケーションを通じてとあるように、昨今言われている孤立死対策として水道局ができるものは、メーター検針作業の中でできないかということと、そういった検討をすべきではないかということです。そのための課題は何かということも含めて一回検討してもらえないかと思うのですけれども、いかがでしょうか。

◎（星崎お客さまサービス推進部長） 加納委員御指摘のとおり、生活にお困りになっている方々の中には、何らかの福祉の手が届いている方と全く届いていなくて孤立されている方の二通りの方がいらっしゃいます。全く孤立していらっしゃる方たちをどう把握して、どう支援の手を差し伸べていくことができるかということが、大きな課題であると考えております。

水道局では水道料金を滞納されているお客様で生活にお困りになっている方、そうではないかと推測がされる場合には職員が直接訪問し分納相談に応じており、その際に生活保護制度や相談窓口を御紹介したチラシをお渡しする取り組みを従前から行っております。また、本年5月から健康福祉局が主催している横浜市孤立予防対策検討委員会に参画し、水道局ができることの検討を始めたところでございます。一部の地域サービスセンターでは、区の福祉保健課と連携し、水道事業者にできることという検討をスタートさせたところでございますので、また、検討の経過などにつきましても御相談させていただければと考えております。

◆（加納委員） 非常に大事な視点で、一方で本来だと個人情報の問題などさまざまあるのだけれども、孤立死を未然防止するというところで、戸塚区が本市初めて新聞の配達員や郵便局の職員などで孤立防止のための対策を、見守りネットを始めた。

水道局もある種全世帯、全企業、全商店に2カ月に1回、あるところは1カ月単位で入っているということも聞いているけれども、これはうまく活用していただきたいと思うのです。一方で課題があることも、特別委

員会でやることもわかるのだけれども、ここは常任委員会だから、できたらそういったことも、私とすればしっかりとやっていただきたい。そのための課題も抽出していただいて、できたらその報告をしていただきたいと思うのです。

できることは何でもやっていただいて、そこから、何とか孤立死、孤独死を少なく、撲滅していくということは水道局もできるはずなので、そんなことについてはしっかり進めていただきたいのですが、もう一度局長の決意なりありましたらお願いします。

◎（土井水道局長） 加納委員御指摘のようにひとり暮らし高齢者が非常にふえておりますので、水道局も定期的に検針などで回っております。

先ほど星崎お客さまサービス推進部長が答えましたように、横断的な体制として総合的にやっていくことが非常に大事だと思いますので、水道局もその中で役割をきちんと果たして、できる限り孤立防止に向けて取り組んでまいりたいと考えております。